

平成28年度第2回 埼玉中部資源循環組合
ごみ処理施設等建設検討委員会 会議録

担当 埼玉中部資源循環組合施設課

会議の名称	平成28年度第2回埼玉中部資源循環組合 ごみ処理施設等建設検討委員会	
開催日	平成28年12月8日(木)	
開催時間	午後5時55分開会 ・ 午後7時34分閉会	
開催場所	吉見町福祉会館2階会議室	
議長氏名	岩崎 勤 (吉見町)	
出席者氏名 (出席者数)	建設検討委員会出席名簿のとおり (13名)	
欠席者氏名 (欠席者数)	田島實(飯島新田地区代表)、宮澤正紀(江和井地区代表) (2名)	
オブザーバー氏名	(一財)日本環境衛生センター 速水草一、池本久利	
事務局職員氏名	根岸正己、中野欽章、朝香学、久保島賢、清水雅也	
その他出席者	川島町環境センター 木村敏光 (株)エイト日本技術開発 比嘉、肥田野、相羽	
議事の記録方法	要点筆記	
会議の内容	(挨拶) 岩崎委員長	
	(協議事項) 平成28年度第2回埼玉中部資源循環組合ごみ処理施設等建設検討委員会次第のとおり	
会議の内容	(協議結果) (1)施設整備基本計画(素案)について 施設整備規模、処理方式、炉数、煙突の高さ、バイオガス化施設整備事業実施可能性調査結果、今後のスケジュールについて事務局より説明した。	
	(2)その他 次回は平成29年1月12日(木)午後3時から	

議事の要旨

司会(事務局)	1 開会 (午後5時55分)
	2 あいさつ
岩崎委員長	あいさつ
	3 協議事項
事務局	(1) 施設整備基本計画(素案)について 資料に基づき説明。
委員A	施設稼働時に寄居町にある県の最終処分場は稼働しているのか。
事務局	また、どの程度の焼却灰が発生するのか。
事務局	県の最終処分場について第2期事業計画もあり整備中である。当組合施設の稼働予定の平成34年度においても使えなくなることはない想定している。灰の資源化と最終処分の方針はコスト比較も加味して最終決定する。
エイト日本技術開発	一般的な事例から、焼却灰は概ね処理量の1割、10～13%程度発生する。
委員B	議会視察研修会で流動床方式の施設に行ったが、生成物は順調に取引きされているという話であった。今回の提案のあったストーカ方式でも、流動床方式と同様の生成物が出てくるのか。また、生成物は問題なく取引きされるのか。
事務局	ストーカ方式の場合、燃えがらとばいじんが出てくる。それらは太平洋セメント熊谷工場にてセメント原料化、資源循環工場内の企業にて人工砂化等の資源化がされており、県内で十分資源化が可能であると考えている。また、流動床方式にて生成されるスラグについては、建設資材として利用可能であるが、土木業者によっては利用されないという事例もある。
委員C	流動床式ということであるが、流動床式ガス化溶融方式ではないのか。これは、処理方式が大きく異なる。砂状のスラグにする方式であり、スラグの利用率があまり良くないという課題がある。
	事務局より、ストーカ方式を採用するという提案があったが、個人的には、非常に賢明な判断であると思う。実績が非常に多く、長年にわたって採用されている。しかし、ストーカ方式には、大別すると、往復動火格子炉、竪型炉、回転式ストーカ炉の3つの方式がある。往復動火格子炉は、1,000基以上建設されており信頼性も高い方式であるが、竪型炉はこの規模には適しないと評価され、回

	<p>転式は実績が非常に少ない。これらのことから、ストーカ方式の中でも、実績があり信頼性の高い往復動火格子炉に限定しても良いのではないかと思う。</p>
委員 A	<p>前回視察に行った小山広域の施設は階段式ということであるが、これは往復動火格子炉になるのか。</p>
委員 C	<p>往復動火格子炉である。</p>
委員 D	<p>バイオガス化の検討結果は、施設整備基本計画には反映しないのか。</p>
事務局	<p>資料 2 の P5 にバイオガス化について「検討されている」という記述はある。検討結果を計画にどのように反映をするかについては、事務局でまとめたものを次回の委員会で提案するので検討いただきたい。</p>
委員 E	<p>地区別説明会では、本日の資料を用いて説明をするのか。地域住民に対しては、分かりやすい資料、説明に努めていただきたい。</p>
事務局	<p>計画概要版をよりわかりやすくした資料を用いて説明することを予定している。</p>
委員 F	<p>煙突の 59m とは、埼玉中部環境センターの煙突高さと同じか。</p>
事務局	<p>同じ 59m である。</p>
委員 B	<p>バイオガス化施設検討のあり方について、推進することが良いということでの検討なのか、考え方を教えてもらいたい。</p>
事務局	<p>組合で整備する施設は、今後何十年も長期的に稼働する施設であるため、可能性のあることは検討したいという考えである。バイオガス化施設整備事業実施可能性調査は、選択肢の一つとしての調査であり、導入を前提とした調査ではない。</p>
委員 A	<p>計画概要版 P2 の排ガス基準値の表において、硫黄酸化物は、K 値と ppm を比較する表になっており、単位が異なるためわかりにくい。</p>
事務局	<p>硫黄酸化物の法基準値を ppm で表すには、K 値のほかに、煙突高さ、排ガス量、排ガス温度、排ガス速度などの条件が必要になるため、現段階では表示していない。煙突高さが 59m の場合、諸条件を変えて計算すると概ね 1,200～2,000ppm になる。</p>
委員 G	<p>分かりやすい説明と簡略化した説明は意味が違うので、説明においては住民にわかりやすいように注意した方がよろしいかと思う。</p>
委員 H	<p>施設だよりによると、建設に向けた地質調査を実施しているとのことだが、現地は軟弱地盤であり液状化が懸念される場所である。</p>

事務局	<p>地質調査についても結果が出れば地域への説明を行うのか。</p> <p>現地が軟弱地盤ということは理解している。発電や熱利用、災害発生時の拠点ということ踏まえ、建設方法を十分に検討することを説明する。</p>
委員 H	<p>地質調査結果を受けて、建設方法についてもこの建設検討委員会において検討する事項になるのではないのか。</p>
事務局	<p>今回諮問されている施設整備基本計画には地質調査結果に基づく安全性の検討は含まれていない。施設に係る安全性については、今後検討していく事項と捉えている。</p>
議長	<p>地区別説明会に、隣接する大串地区を含めた方が良いという意見もあったので、検討していただきたい。</p>
事務局	<p>今回の地区別説明会は地元 7 地区を対象とした。地元 7 地区に隣接している地区としては、大串を始め、荒子、大和田、蚊斗谷がある。要望があれば、区長と相談して対応したい。</p>
委員 I	<p>住民から建設費はどのくらいかかるのかという質問を受けた場合、どのように回答したらよいのか。</p>
事務局	<p>委員会での資料は、住民にご覧いただけるように会議後迅速に公開することを考えている。資料中の数値については、組合へ問い合わせただければ説明する。</p>
事務局	<p>5 その他</p> <p>次回の日程は1月12日（木）午後3時とする。</p>
委員 B	<p>パブリックコメントの結果について、概略でも良いので事前に送ってほしい。</p>
事務局	<p>パブリックコメントと地区別説明会の結果を事前に送れるようにしたい。時間的な制約から、正式な資料の前段階となる可能性があることもご了承いただきたい。</p>
	<p>6 閉会</p> <p style="text-align: right;">(午後7時34分終了)</p>